DBSWINサーバー 5

サーバーマネジャー&データベースのメンテナンス

J

仕様説明書＆トラブルシューティング

DÜRR DENTAL

2014/03/14

目次

1. サーバーマネジャー

1.1 機能と使用方法の概要 3
1.1.1 同報メッセージ 4
1.1.2 サーバーのサービスを再起動 5
1.1.3 ポート番号の変更 5
1.1.4 予備バックアップ 7
1.1.5 復元 8
1.1.6 データプールを使用不可能・使用可能 9
1.2 データベースパスの変更. 10
1.2.1 データベースの移動 10
1.2.2 パス設定の確認 11

2. データベースのメンテナンス

2.1 属さない画像を修復する. 13
2.1 レスキューデータベース. 14
2.2 二つのデータベースを統合する. 16

3. トラブルシューティング

3.1 DBSWINがインストールできません 20
3.2 DBSWINのデータベース復元について. 20
3.2.1 DBSWINサーバーマネジャーのバックアップを復元 20
3.2.2 他のバックアップソフトウェアのバックアップを復元 20
3.3. データベースに属さない画像を修復する .20
3.4. 画像取り込みに関するトラブル 20
3.5. ネットワークのトラブル 20
3.6. パスワードを忘れてしまった場合の対処法20
3.7. DBSWINで「レントゲン」タブなどが表示されない 21

1. サーバーマネジャー

1.1 機能と使用方法の概要

サーバーマネージャーがDBSWINのデータプール管理と設定、又はDBSWIN用ネットワークサービスの設定と管理を行います。さらにデータプールのバックアップと復元、及びクライアントとのメッセージ通信を行います。

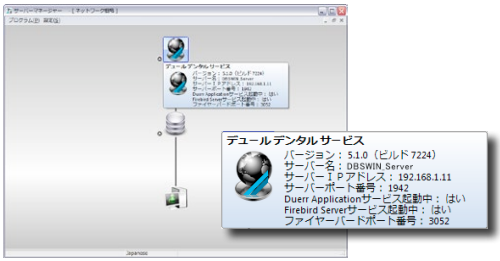
サーバーマネジャーの起動

○サーバーマネージャーの起動は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Duerr Dental」→「DBSWIN」→「Server Manager」のショートカットをクリックしてください。

サーバーマネージャーはDBSWINサーバーのパソコンでしか起動することができません。

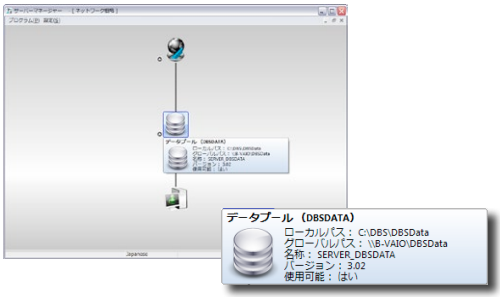
表示言語の選択

○メニューの「設定」→「言語表示」→「Japanese」で日本語表示を選んでください。



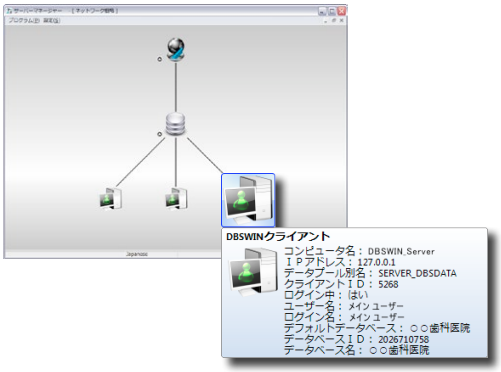
○「デュールデンタルサービス」のシンボルの上にマウスを置くと、現在のステイタスが表示されます。

○シンボル上をクリックすると、さらにファンクションメニューが表示されます（詳細説明は後記）。



○「データプール」のシンボルの上にマウスを置くと、現在のステイタスが表示されます。

○シンボル上をクリックすると、さらにファンクションメニューが表示されます（詳細説明は後記）。



DBSWINが起動中のクライアントはサーバーマネージャーのツリービューで表示されます。

○「DBSWINクライアント」のシンボルの上にマウスを置くと、現在のステイタスが表示されます。

○シンボル上をクリックすると、さらにファンクションメニューが表示されます（詳細説明は後記）。

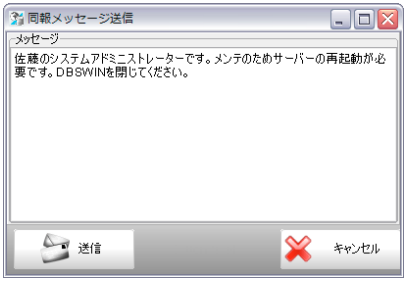
1.1.1 同報メッセージ

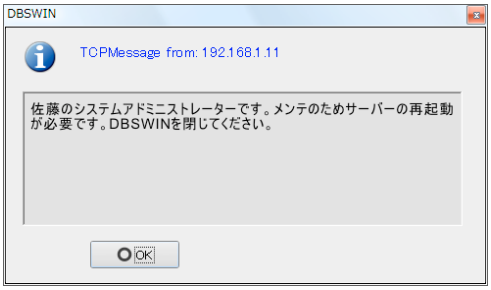
メンテナンスの際など、DBSWINクライアントに同報メッセージを送ることができます。メッセージはTCPネットワークプロトコールを使って送信します。

○「同報メッセージ」のボタンをクリックします。

○ダイアログに伝えたい事項を記入し、「送信」ボタンをクリックします。

○クライアントの画面にメッセージが表示されます。





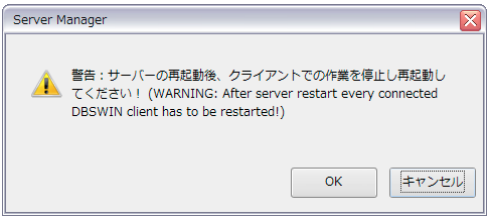
1.1.2 サーバーのサービスを再起動

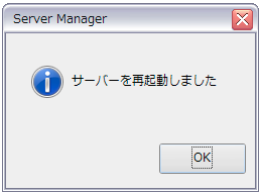
メンテナンスを行う際、「Duerr Application Service」と「Firebird Server」のサービスの再起動が必要な場合があります。サービスを再起動したら、クライアントでDBSWINを再起動する必要があります。

○「デュールデンタルサービス」をクリックします。

○「サーバー再起動」をクリックします。

○確認メッセージで「OK」をクリックします。





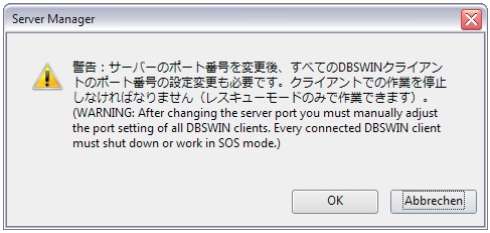
1.1.3 ポート番号の変更

標準のTCPポート番号（1942と3052）が他のソフトウエアが使用中の為、又はパソコンの条件によって使用できない場合は、DBSWINのポート番号を変更することができます。

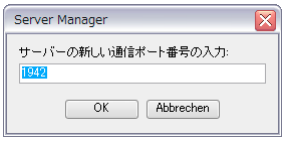
サービスの通信ポートの変更

○「デュールデンタルサービス」をクリックします。

○「サービスポート」をクリックします。

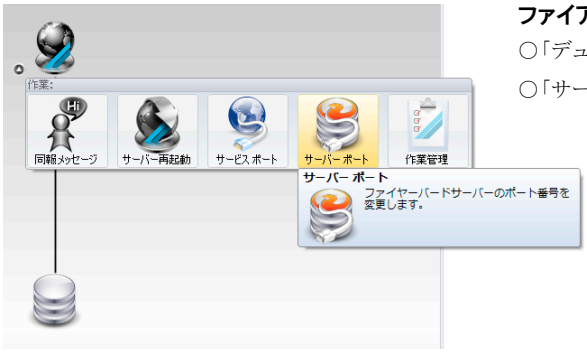


○メッセージを読み、「OK」をクリックしてください。



○ダイアログに新しいポート番号を入力し、「OK」をクリックしてください。

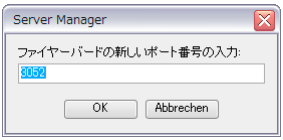
ファイアーバードポート番号の変更



○「デュールデンタルサービス」をクリックします。

○「サーバーポート」をクリックします。

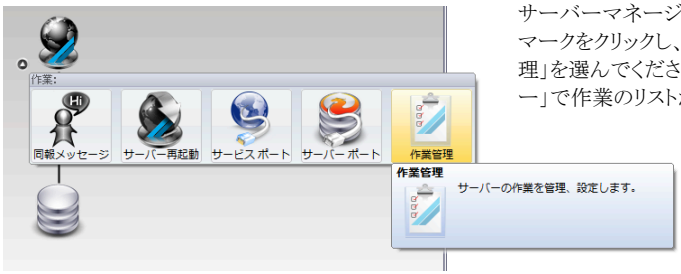
○メッセージを読み、「OK」をクリックしてください。



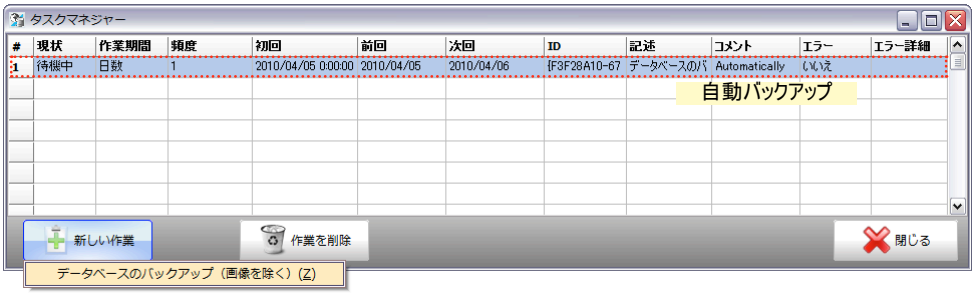
○ダイアログに新しいポート番号を入力し、「OK」をクリックしてください。

1.1.4 予備バックアップ

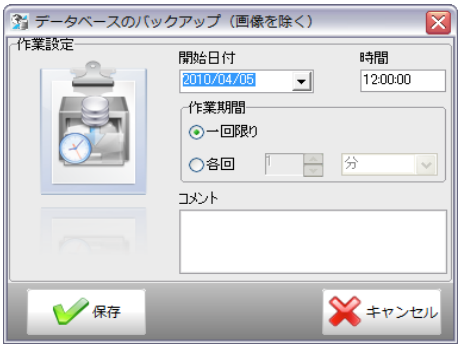
サーバーパソコンのサーバーマネージャーが、初期設定により毎日自動的にデータベースのバックアップを取ります(画像を除く)。サーバーマネージャーの全てのバックアップは ¥DBSData¥Backup のフォルダに保存されます。これらのフォルダも医院の毎日のバックアップに加えてください。この自動バックアップの確認をする、又は手動でバックアップを行うには、サーバーマネージャーを起動してください。



サーバーマネージャーで上図のようにサーバーのマークをクリックし、展開したメニューから「作業管理」を選んでください。そうすると「タスクマネジャー」で作業のリストが表示されます。

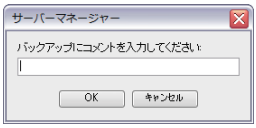


バックアップ作業の日程を決めるには、「新しい作業」→「データベースのバックアップ」を選んでください。表示されるダイアログに日程を記入してください。

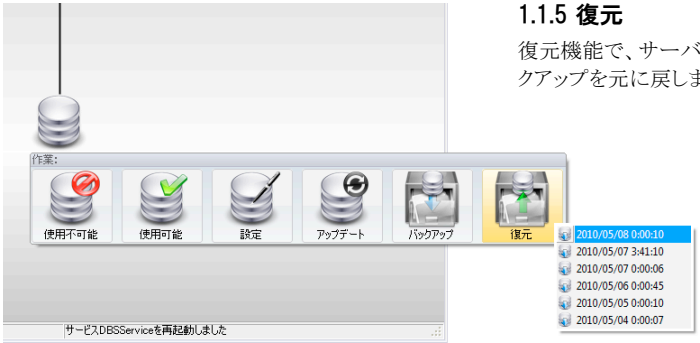


ダイアログでバックアップの設定を行い、「保存」をクリックします。

予備のバックアップを手動で行う場合は、左図のようにデータプールのボタンをクリックしてください。展開したメニューから「バックアップ」を選んでください。



表示されるダイアログにコメントを記入し、「OK」をクリックするとバックアップ作業が開始します。



1.1.5 復元

復元機能で、サーバーマネージャーで行ったバックアップを元に戻します。

○「復元」をクリックし、表示されるリストから復元するバックアップを選びます。

データプールを復元するとバックアップ実行日以降に入力した患者データと撮影画像へのリンクが消失します。次章でそれらの撮影画像をどのようにDBSWINのデータベースに戻して修復するかを説明します。

○リストから選択したバックアップの情報が「バックアップの管理」のダイアログで表示されます。確認の上、復元のボタンをクリックすると、現在のデータプールがバックアップで上書きされます。

1.1.6 データプールを使用不可能・使用可能

他のバックアップソフトウェアで取ったバックアップの復元は、以下のように行ってください。

① サーバーマネージャーでデータプールを使用不可能にします。

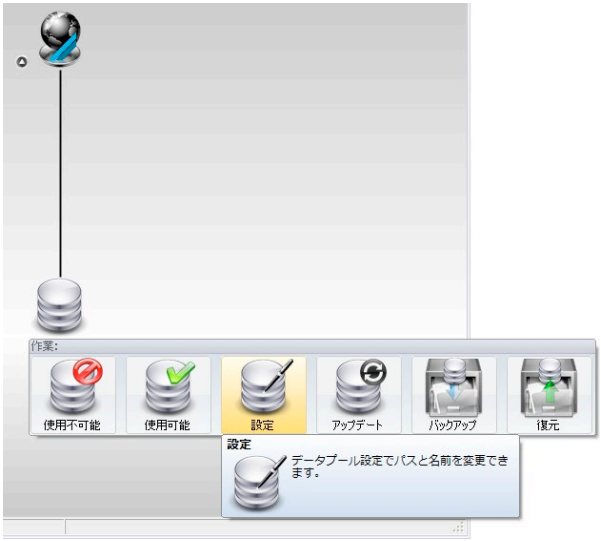
② データの復元をします。

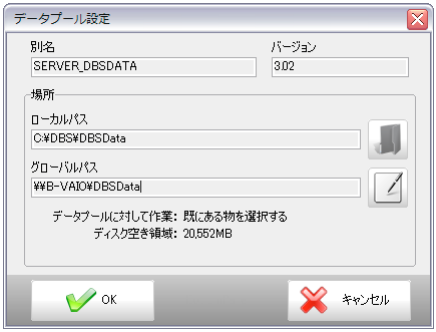
③ データプールを使用可能に戻します。

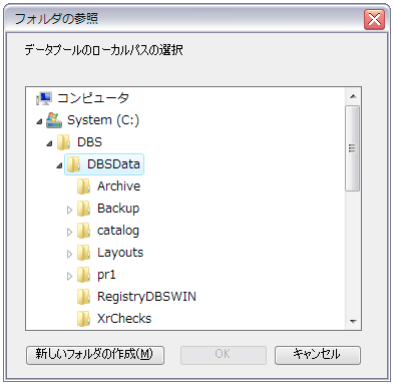
1.2 データベースパスの変更

1.2.1 データベースの移動

DBSWINデータベースを他のパス／場所に移動するには







1.2.2 パス設定の確認

パス設定はINIファイルで確認できます。又は代わりに別のデータベースを使用するには、INIファイルの設定を編集します。

将来的に使用するつもりのデータベースをご希望の場所にコピーしてください。以下のINIファイルを開き、赤くマークされている設定を修正してください。全ファイルを修正した後、「Duerr Application Service」と「Firebird Server」を再起動することが必要です（例えば、サーバーマネージャーで「サーバー再起動」のボタンをクリックしてください）。

C:¥ProgramData¥Duerr¥Config¥LDBS.INI

※このファイルはサーバーとクライアントで修正してください

```
[Setup]
ServerIP=127.0.0.1
※DBSWINサーバーでの場合はローカル・ループバック・アドレス：ServerIP=127.0.0.1
※クライアントの場合はサーバー名：ServerIP=DBSWIN_Server
ServerPort=1942
DBSDataAlias=SERVER_DBSDATA
GlobalIni=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥GDBS.ini
※サーバーでGDBS.INIファイルのパス、単一パソコンの場合：GlobalIni=C:¥DBS¥DBSdata¥GDBS.INI
```

C:¥ProgramData¥Duerr¥Config¥AppService.ini

※このファイルはサーバーで修正してください

```
[Setup]
FirebirdType=1
Port=1942

[DBSDATA0]
Path=C:¥DBS¥DBSData
GlobalPath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata
※単一パソコンの場合：GlobalPath=C:¥DBS¥DBSdata
Alias=SERVER_DBSDATA
```

C:¥DBS¥DBSData¥GDBS.INI

※このファイルはサーバーで修正してください

```
[Praxis]
PraxisName1=Dental Office Name
※この設定はDBSData¥pr1¥database¥dbident.iniのファイルから書き写します
PraxisName2=Dental Office 2 Name
※複数のデータベースがある場合のみ

[PraxisName1]
Key=2551825839
※この設定はDBSData¥pr1¥database¥dbident.iniのファイルから書き写します
Server=localhost
Database=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥pr1¥database¥
※単一パソコンの場合：Database=C:¥DBS¥DBSdata¥pr1¥database¥
DatabaseServerRelated=C:¥DBS¥DBSData¥pr1¥database¥

[PraxisName2]
※複数のデータベースがある場合のみ
Key=1124034
Database=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥¥Pr2¥Database¥
※単一パソコンの場合：Database=C:¥DBS¥DBSdata¥Pr2¥database¥
DatabaseServerRelated=C:¥DBS¥DBSData¥Pr2¥Database¥

[XrChecks]
Server=localhost
Database=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥XrChecks¥XRCHECKS.FDB
※単一パソコンの場合：Database=C:¥DBS¥DBSdata¥XrChecks¥XRCHECKS.FDB
DatabaseServerRelated=C:¥DBS¥DBSData¥XrChecks¥XRCHECKS.FDB
```

[Archive]
Server=localhost
Database=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥Archive¥ARCHIVE.FDB
※単一パソコンの場合：*Database=C:¥DBS¥DBSdata¥Archive¥ARCHIVE.FDB*
DatabaseServerRelated=C:¥DBS¥DBSData¥Archive¥ARCHIVE.FDB

[LightTable]
Layoutfile=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥layout.ini
※単一パソコンの場合：*Layoutfile=C:¥DBS¥DBSData¥layout.ini*
CatalogRoot=C:¥DBS¥DBSData¥CATALOG

[Setup]
LicenseIni=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥ModulLicense.ini
※単一パソコンの場合：*LicenseIni=C:¥DBS¥DBSData¥ModulLicense.ini*

C:¥DBS¥DBSData¥ModulLicense.ini
※このファイルはサーバーで修正してください

[DICOMStarter]
NAFPath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSData¥DICOMStarter.naf
※単一パソコンの場合：*NAFPath=C:¥DBS¥DBSData¥DICOMStarter.naf*

[DICOMPrint]
NAFPath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSData¥DICOMPrint.naf
※単一パソコンの場合：*NAFPath=C:¥DBS¥DBSData¥DICOMPrint.naf*

[DICOMQRP]
NAFPath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSData¥DICOMQRP.naf
※単一パソコンの場合：*NAFPath=C:¥DBS¥DBSData¥DICOMQRP.naf*

C:¥DBS¥DBSData¥pr1¥database¥dbident.ini
※このファイルはサーバーで修正してください

[Praxis]
Name=Dental Office Name
Key=2551825839
VideoImagePath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥¥pr1¥VidImg¥
※画像ファイル保存先パス
XRayImagePath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥¥pr1¥XrayImg¥
※画像ファイル保存先パス

[Info]
Version=3.02
※注意：この設定を変更しないでください。このバージョンとインストールしたデータベースのバージョンが同じことを確認してください。異なる場合は、まず一致するデータベースと*DBSWIN*のバージョンをインストールしてください

C:¥DBS¥DBSData¥pr2¥database¥dbident.ini
※複数のデータベースがある場合のみ

[Praxis]
Name=Dental Office 2 Name
Key=1124034
VideoImagePath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥¥Pr2¥Vidimg¥
XrayImagePath=¥¥DBSWIN_Server¥DBSdata¥¥Pr2¥Xrayimg¥

2. データベースのメンテナンス

2.1 属さない画像を修復する

DBSWINのデータベースのバックアップを復元すると、バックアップ実行日以降に撮影された画像が消失します。これらのファイルはまだ存在しますが、データベースからは外されています。サーバーマネージャーのバックアップを復元する場合も同様です。

DBSWINの「データベース内の画像確認／修復」の機能で、この画像ファイルをデータベースに戻します。

DBSWINを起動し、「メニュー」の「オプション」で「設定タブを表示」を選びます。次に「データベース設定」タブを押し、左の「データベース内の画像確認／修復」のボタンで、ダイアログを開きます。「データベース内の画像確認／修復」のダイアログでファイルとしては存在してもデータベースには属さない画像が表示されます。

ダイアログの説明：
左上にファイル内にある画像数とデータベース内の画像数の比較があります。左図の例では「ファイル数」ではビデオ画像が10枚、レントゲン画像が243枚、「データベース内数」では、ビデオ画像が10枚でレントゲン画像が240枚になっています。つまり3枚のレントゲン画像がファイルとしては存在しますが、データベースには属していないことがわかります。

左中央のリスト上には、データベースに属さない画像が表示されます。選択すると右側にサムネイルと元のデータベースや患者、画像などの情報が表示されます。

左下の「選択した画像の扱い」で、画像を採用、無視、あるいは削除するかを選択できます。現在使用しているデータベースの画像だと判断すると自動的に「採用」が選択されます。

「実行」のボタンを押すと作業が完了し、画像とそれに属する患者データが戻ります。画像修復の限界: 画像に記録されている元データベースの名前（医院名）とIDが違っていた場合は画像がデータベースに修復されません。この場合、ダイアログで内容が一致しない部分が赤く表示されます。画像内の記録が完全でない場合（カルテ番号が抜けているなど）も修復されません。修復作業の記録がTXTファイルに書き込ます（例：C:¥DBS¥DBSData¥pr1¥dbrecon¥20140314_121351¥dbreconinfo.txt）。

元データベースの名前とIDが一致しない場合の解決法：以下のファイルを次のように編集してください。

GDBS.ini （パスはデータベースのフォルダです。パス：○○¥DBS¥DBSdata）

```
[Praxis]
;PraxisName1=現在使用しているデータベースの名前（医院名）
PraxisName1=元データベースの名前
[PraxisName1]
;Key=現在使用しているデータベースのID
Key=元データベースのID
```

dbident.ini（３つのファイルを編集、パス：○○¥DBS¥DBSdata¥pr1¥database、...¥vidimg、...¥xrayimg

```
[Praxis]
;Name=現在使用しているデータベースの名前（医院名）
Name=元データベースの名前
;Key=現在使用しているデータベースのID
Key=元データベースのID
```

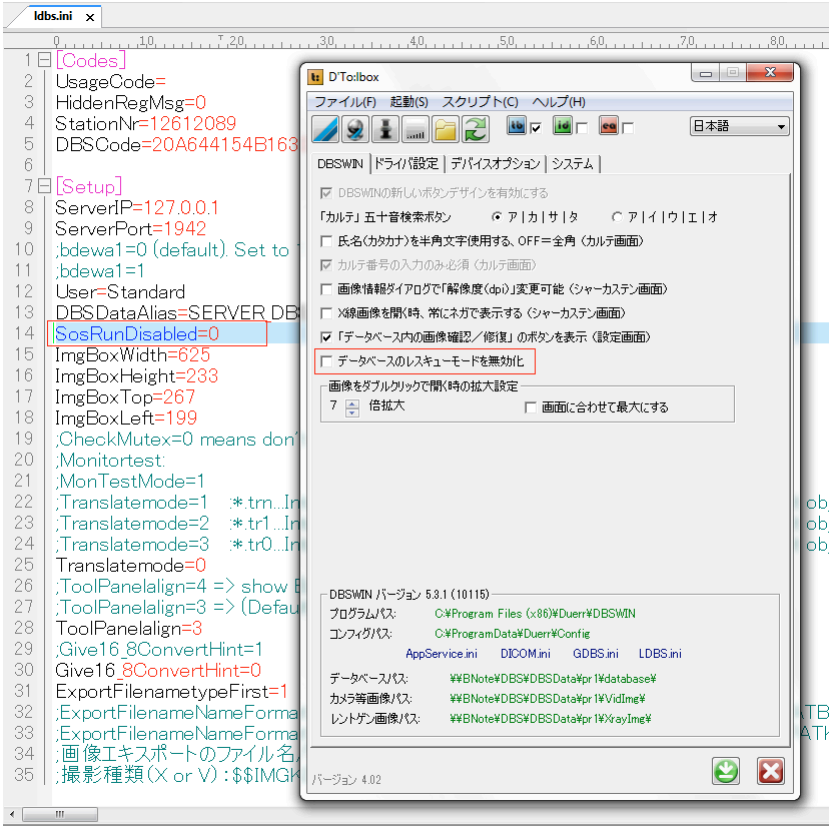
画像の修復後、全てのファイルの内容を元に戻してください。カルテ番号が未記入の場合の解決法：D'Toolboxを起動し「カルテ番号の入力が必須」欄のチェックを外してください。修復を行った後、もう一度チェックを入れてください。

2.1 レスキューデータベース

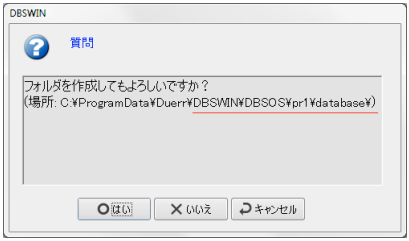
データベースのパス設定が間違っている、パスにアクセスできない、又はデータベースが破損している場合、以下のメッセージが表示されます。

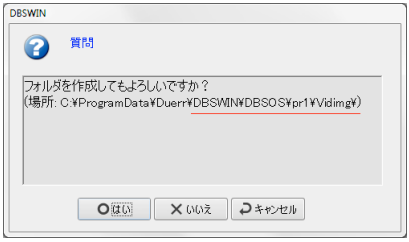
問題が解決するまでは撮影した画像にアクセスできません。ただし、レスキューデータベースで撮影を続けることができます(時間制限はありません)。

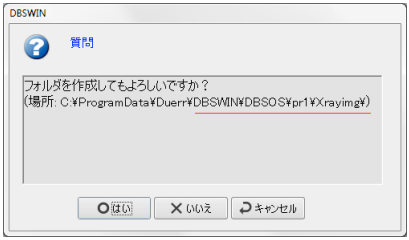
レスキューデータベースを有効化するには、Dツールボックスで「データベースのレスキューモードを無効化」のチェックをはずしてください(これでldbs.iniのSosRunDisabledが1から0になります)。



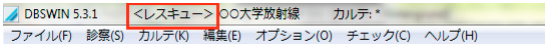
その後、DBSWINを起動してください。以下の3つの質問に全て「はい」と答えてください。



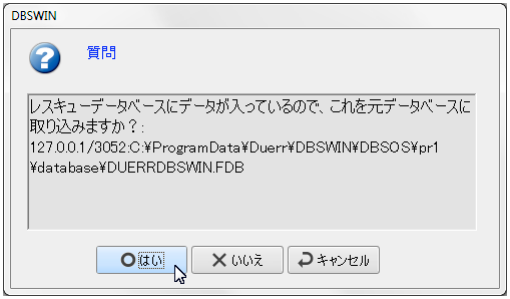




DBSWIN画面のタイトルに＜レスキュー＞が表示され、撮影作業を続行することができます。



後で元のデータベースへのアクセスが正常になったら、レスキューデータベースの画像やカルテが元データベースに取り込まれます。DBSWINを起動すると、以下のダイアログが表示されます。「はい」を押すとデータの統合が始まります。サイズによって多少お時間がかかります。

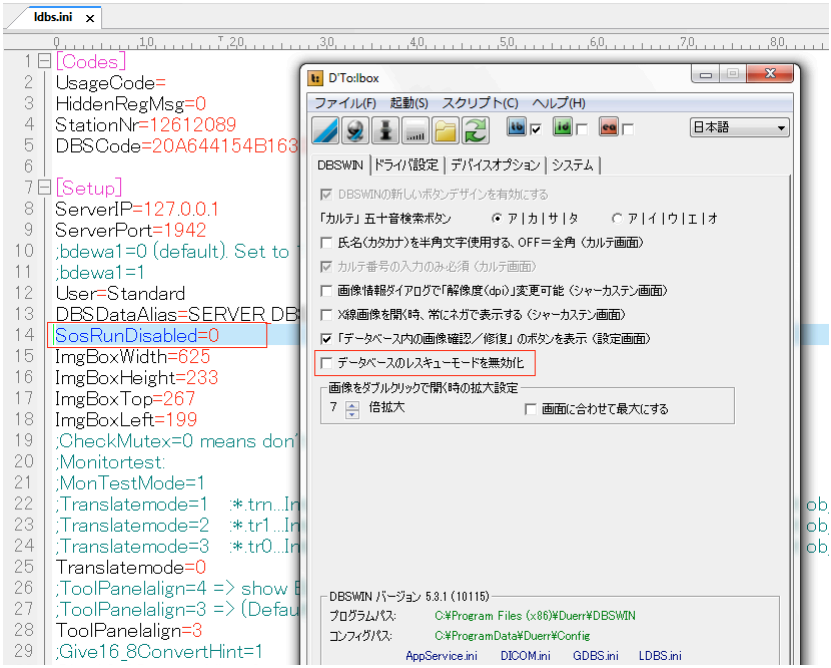


2.2 二つのデータベースを統合する

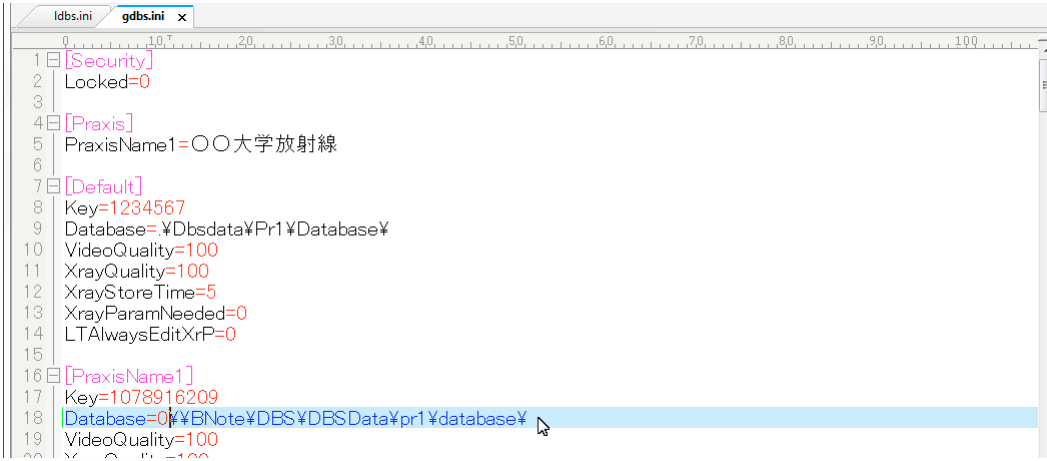
二つのデータベースは以下のように統合することができます。作業はご使用のDBSWINサーバーで行います。どちらのデータベースも正常であることが必要です。属していない画像は、この作業で無視されます。

① DBSWINを起動し、正常に作動することを確認し、また閉じてください。

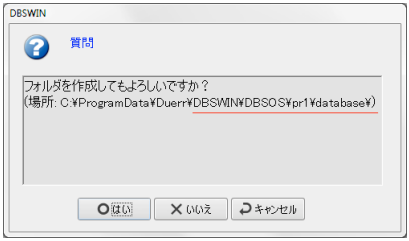
② Dツールボックスで「データベースのレスキューモードを無効化」のチェックをはずし、レスキューデータベースを有効化してください。

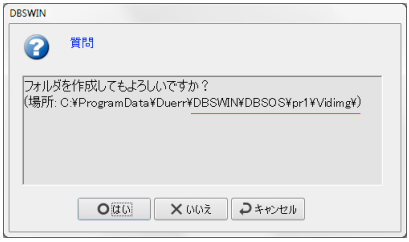


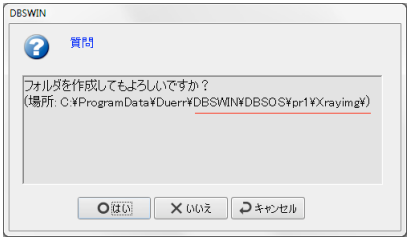
③ Gdbs.iniファイルのDatabaseパス設定で間違ったパスを入力してください（例えばパスの前に0を入力）。



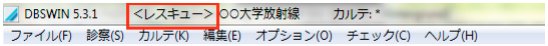
④ DBSWINを起動し、以下の3つのダイアログで「はい」をクリックしてください。



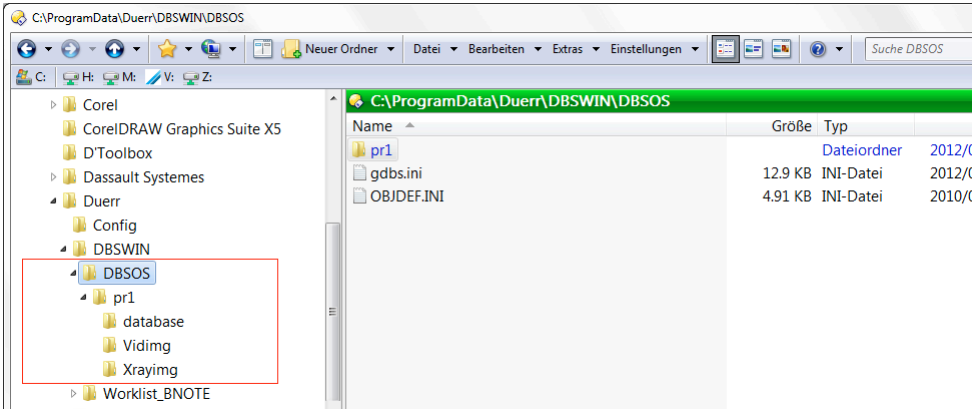




DBSWIN画面のタイトルに＜レスキュー＞が表示されます。DBSWINをまた閉じてください。



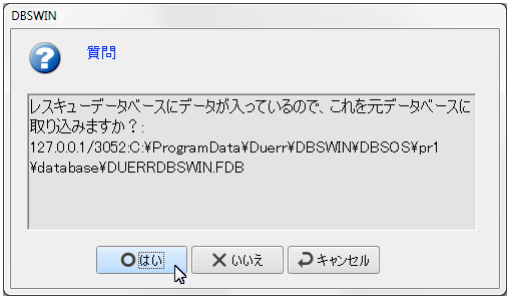
④ これで C:¥ProgramData¥Duerr¥DBSWIN¥DBSOS のフォルダ内に空のレスキューデータベースができました。



⑤ 統合したいデータベースの3つのフォルダ「database」「vidimg」「xrayimg」を C:¥ProgramData¥Duerr¥DBSWIN¥DBSOS¥Pr1 にコピーしてください。注意！3つのフォルダに入っているdbident.iniファイルは絶対に上書きコピーしないでください！

⑥ またGdbs.iniのdatabaseパス設定を正確に戻し、保存してください。

⑦ DBSWINをもう一度起動すると、下のダイアログが表示されます。「はい」をクリックするとデータベースの統合が始まります。サイズによって多少お時間がかかります。



⑧ 最後にDツールボックスで「データベースのレスキューモードを無効化」にチェックを入れ、レスキューデータベースを無効にします。

3. トラブルシューティング

3.1 DBSWINがインストールできません

DBSWINのインストールができない場合、又はインストール後にDBSWINが起動せずエラーメッセージが表示される場合、以下のフォルダを消してからもう一度インストールを行ってください。
プログラムフォルダ:
C:¥Program Files (x86)¥Duerr (Windows Vista, Windows 7)
C:¥Program Files¥Duerr (Windows XP)
設定フォルダ:
C:¥ProgramData¥Duerr¥Config (Windows Vista, Windows 7)
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Duerr (Windows XP)

3.2 DBSWINのデータベース復元について

3.2.1 DBSWINサーバーマネジャーのバックアップを復元

サーバーマネジャーの取扱説明書「1.5 復元」をご覧ください。

3.2.2 他のバックアップソフトウェアのバックアップを復元

サーバーマネジャーの取扱説明書「1.6 データプールを使用不可能・使用可能」をご覧ください。

3.3. データベースに属さない画像を修復する

サーバーマネジャーの取扱説明書「4. データベースに属さない画像を修復する」をご覧ください。

3.4. 画像取り込みに関するトラブル

○画像デバイスの設定と接続を確認してください。
○バックアップソフトウェアを起動していないことを確認。バックアップソフトウェアの設定をDBSWINとドライバの作業を妨害しないようにしてください。
○バックアップソフトウェアの設定を確認:「C:¥ProgramData¥Duerr¥Images」のフォルダをバックアップしないでください。
○アンチウィルスソフトウェアの設定を確認。アンチウィルスソフトウェアの設定をDBSWINとドライバの作業を妨害しないようにしてください。
○できるだけバックグラウンドで起動しているソフトウェアが少なくなるようにしてください。バックグラウンドで他のソフトウェアが作動していると、CPUパワーとメモリーを消費します。

3.5. ネットワークのトラブル

DBSWINは正しく機能しているネットワークにインストールすることができます。DBSWINにはネットワークに影響を与えるコンポーネントが入っていないため、お使いのネットワークに影響を与えることはありません。ネットワークに問題が発生した場合は、ネットワークを作成した会社、ネットワークのソフトウエアをインストールした管理会社にお問い合わせください。

3.6. パスワードを忘れてしまった場合の対処法

GDBS.INIファイルで以下の様に編集するとDBSWINのユーザーログインのパスワードをリセットできます。
[Users]
NL=0E7AB2E6465475AE
LoginName1=メイン ユーザー,メイン ユーザー,,19CD7E7FC7A52BF6,0,〇〇歯科医院
！注意:「〇〇歯科医院」の代わりに正しい名前を記入してください。
[Grants]
LoginName1=3F5591D092DAFF2E

3.7. DBSWINで「レントゲン」タブなどが表示されない

①DBSWINの取扱説明書に従い、サーバーのパソコンでDBSWINをアクティブ化してください。各クライアントで使用する機能を「モジュールのアクティブ化設定」のタブで選択してください。「モジュールのアクティブ化設定」画面にチェックを入れます。
②モジュール設定で「DBSWINのプロパティ」を開き、「一般」タブで採用するモジュールを選択してください。

DÜRR DENTAL AG（ドイツ）
Höpfigheimer Straße 17
74321 Bietigheim-Bissingen

Tel: +49 7142-705-0
E-mail: info@duerr.jp
Internet: http://www.duerr.jp

DÜRR DENTAL